



SVMの設定のレプリケート ONTAP 9

NetApp
February 12, 2026

目次

SVMの設定のレプリケート	1
ONTAP SnapMirror SVM レプリケーション ワークフロー	1
ONTAP SnapMirrorデスティネーション SVMにボリュームを配置するための基準	1
ONTAP SVM構成全体を複製する	2
ONTAP SnapMirror SVMレプリケーションからLIFと関連ネットワーク設定を除外する	6
ONTAPを使用したSVM レプリケーションからネットワーク、ネーム サービス、およびその他の設定を除外	9
ONTAP SnapMirror SVM DR関係に使用するローカル階層を指定する	12
DR関係のONTAP SnapMirrorデスティネーションSVM用のSMBサーバを作成する	13
ONTAP SnapMirror SVM DR関係からボリュームを除外する	15

SVMの設定のレプリケート

ONTAP SnapMirror SVM レプリケーション ワークフロー

SnapMirror SVMレプリケーションでは、デスティネーションSVMを作成し、レプリケーション ジョブ スケジュールを作成し、SnapMirror関係を作成して初期化します。

ニーズに最適なレプリケーション ワークフローを決める必要があります。

- "SVMの設定全体のレプリケート"
- "SVMレプリケーション対象からのLIFと関連ネットワークの設定の除外"
- "SVM構成からのネットワーク、ネーム サービス、およびその他の設定の除外"

ONTAP SnapMirrorデスティネーション SVMにボリュームを配置するための基準

ソースSVMからデスティネーションSVMにボリュームをレプリケートするときは、アグリゲートの選択基準を理解しておくことが重要です。

アグリゲートは次の基準に基づいて選択されます。

- ボリュームは常に非ルート アグリゲートに配置されます。
- 非ルートアグリゲートは、使用可能な空き領域と、アグリゲート上ですでにホストされているボリュームの数に基づいて選択されます。

空きスペースが多く、ボリューム数が少ないアグリゲートが優先されます。優先度が最も高いアグリゲートが選択されます。

- FabricPoolアグリゲートのソース ボリュームは、デスティネーションのFabricPoolアグリゲートに同じ階層化ポリシーで配置されます。
- ソース SVM 上のボリュームが Flash Pool アグリゲート上にある場合、そのようなアグリゲートが存在し、十分な空き領域があれば、ボリュームは宛先 SVM 上の Flash Pool アグリゲート上に配置されます。
- 複製されるボリュームの `-space-guarantee` オプションが `volume` に設定されている場合、ボリュームサイズよりも大きい空き領域を持つアグリゲートのみが考慮されます。
- レプリケーション中に、ソースボリュームのサイズに基づいて、デスティネーションSVMのボリュームサイズが自動的に増加します。

デスティネーションSVMでサイズを事前に予約したい場合は、ボリュームのサイズを変更する必要があります。ソースSVMに基づいてデスティネーションSVMのボリュームサイズが自動的に縮小されることはありません。

ボリュームをあるアグリゲートから別のアグリゲートに移動する場合は、宛先 SVM で `volume move` コマンドを使用できます。

ONTAP SVM構成全体を複製する

SVMディザスタ リカバリ (SVM DR) 関係を作成して、SVMの設定を別のSVMにレプリケートできます。プライマリ サイトで災害が発生したときに、デスティネーションSVMを迅速にアクティブ化できます。

開始する前に

ソース クラスタとデスティネーション クラスタおよび SVM はピアリングされている必要があります。詳細については、"[クラスタ ピア関係の作成](#)"および"[SVMクラスタ間ピア関係を作成する](#)"を参照してください。

この手順で説明されているコマンドの詳細については、"[ONTAPコマンド リファレンス](#)"を参照してください。

タスク概要

このワークフローでは、デフォルト ポリシーまたはカスタム レプリケーション ポリシーをすでに使用していることを前提としています。

ONTAP 9.9.1以降では、mirror-vaultポリシーを使用する場合、ソースSVMとデスティネーションSVMで異なるSnapshotポリシーを作成でき、デスティネーションのSnapshotがソースのSnapshotによって上書きされることはありません。詳細については、"[SnapMirror SVMレプリケーションの概要](#)"を参照してください。

この手順は、デスティネーションから実行してください。新しい保護ポリシーを作成する必要がある場合（例えば、ソース ストレージVMにSMBが設定されている場合など）は、ポリシーを作成し、*Identity preserve* オプションを使用してください。詳細については、"[カスタムのデータ保護ポリシーの作成](#)"を参照してください。

手順

このタスクは、System ManagerまたはONTAP CLIから実行できます。

System Manager

1. デスティネーション クラスタで、*保護 > 関係*をクリックします。
2. *関係*で、*保護*をクリックし、*Storage VM (DR)*を選択します。
3. 保護ポリシーを選択します。カスタムの保護ポリシーを作成した場合は、そのポリシーを選択してから、レプリケートするソース クラスタとStorage VMを選択します。新しいStorage VM名を入力して新しいデスティネーションStorage VMを作成することもできます。
4. 必要に応じて、デスティネーションの設定を変更し、ID保持を上書きするかどうか、ネットワークインターフェイスおよびプロトコルを含めるか除外するかを指定します。
5. *保存*をクリックします。

CLI

1. デスティネーションSVMを作成します。

```
vserver create -vserver <SVM_name> -subtype dp-destination
```

SVM名はソース クラスタとデスティネーション クラスタの間で一意である必要があります。

次の例では、`svm_backup`という名前のデスティネーション SVM を作成します：

```
cluster_dst:> vserver create -vserver svm_backup -subtype dp-destination
```

`vserver create`の詳細については、link:<https://docs.netapp.com/us-en/ontap-cli/vserver-create.html> ["ONTAPコマンド リファレンス"]を参照してください。

2. デスティネーション クラスタから、`vserver peer create`コマンドを使用して SVM ピア関係を作成します。

詳細については、"[SVMクラスタ間ピア関係を作成する](#)"を参照してください。

`vserver peer create`の詳細については、link:<https://docs.netapp.com/us-en/ontap-cli/vserver-peer-create.html> ["ONTAPコマンド リファレンス"]をご覧ください。

3. レプリケーション ジョブ スケジュールを作成します。

```
job schedule cron create -name <job_name> -month <month> -dayofweek <day_of_week> -day <day_of_month> -hour <hour> -minute <minute>
```

`-month`、`-dayofweek`、および`-hour`の場合、
`all`を指定して、それぞれ毎月、曜日ごと、および時間ごとにジョブを実行できます。



SVM SnapMirror関係のFlexVolに設定可能な最短スケジュール（RPO）は15分です。SVM SnapMirror関係のFlexGroupボリュームに設定可能な最短スケジュール（RPO）は30分です。

次の例では、土曜日の午前3：00に実行される`my_weekly`という名前のジョブ スケジュールを作成します：

```
cluster_dst:> job schedule cron create -name my_weekly -dayofweek  
saturday -hour 3 -minute 0
```

```
`job schedule cron create`
```

の詳細については、[link:https://docs.netapp.com/us-en/ontap-cli/job-schedule-cron-create.html](https://docs.netapp.com/us-en/ontap-cli/job-schedule-cron-create.html)["ONTAPコマンド リファレンス
"^]を参照してください。

4. デスティネーションSVMまたはデスティネーション クラスタから、レプリケーション関係を作成します。

```
snapmirror create -source-path <SVM_name>: -destination-path  
<SVM_name>: -type <DP|XDP> -schedule <schedule> -policy <policy>  
-identity-preserve true
```



`-source-path`および`-destination-path`オプションでは、SVM 名の後にコロン（:）
を入力する必要があります。

次の例では、デフォルト`MirrorAllSnapshots`ポリシーを使用してSnapMirror DR関係を作成します：

```
cluster_dst:> snapmirror create -source-path svm1: -destination  
-path svm_backup: -type XDP -schedule my_daily -policy  
MirrorAllSnapshots -identity-preserve true
```

次の例では、デフォルトの`MirrorAndVault`ポリシーを使用して統合レプリケーション関係を作成します：

```
cluster_dst:> snapmirror create -source-path svm1: -destination-path  
svm_backup: -type XDP -schedule my_daily -policy MirrorAndVault  
-identity-preserve true
```

ポリシー タイプ `async-mirror` でカスタム ポリシーを作成したと仮定すると、次の例ではSnapMirror DR関係が作成されます：

```
cluster_dst::> snapmirror create -source-path svm1: -destination  
-path svm_backup: -type XDP -schedule my_daily -policy my_mirrored  
-identity-preserve true
```

ポリシー タイプ `mirror-vault` でカスタム ポリシーを作成したと仮定すると、次の例では統合レプリケーション関係が作成されます：

```
cluster_dst::> snapmirror create -source-path svm1: -destination  
-path svm_backup: -type XDP -schedule my_daily -policy my_unified  
-identity-preserve true
```

`snapmirror create`の詳細については、link:<https://docs.netapp.com/us-en/ontap-cli/snapmirror-create.html>["ONTAPコマンド リファレンス"]を参照してください。

5. デスティネーションSVMを停止します。

```
vserver stop -vserver <SVM_name>
```

次の例は、svm_backupという名前のデスティネーションSVMを停止します。

```
cluster_dst::> vserver stop -vserver svm_backup
```

`vserver stop`の詳細については、link:<https://docs.netapp.com/us-en/ontap-cli/vserver-stop.html>["ONTAPコマンド リファレンス"]を参照してください。

6. デスティネーションSVMまたはデスティネーション クラスタから、SVMレプリケーション関係を初期化します。

```
snapmirror initialize -source-path <SVM_name>: -destination-path  
<SVM_name>:
```



`-source-path`および`-destination-path`オプションでは、SVM 名の後にコロン (:) を入力する必要があります。

次の例では、ソース SVM `svm1` とデスティネーション SVM `svm_backup` の関係を初期化します：

```
cluster_dst:> snapmirror initialize -source-path svm1: -destination  
-path svm_backup:
```

```
`snapmirror initialize`  
の詳細については、link:https://docs.netapp.com/us-en/ontap-  
cli/snapmirror-initialize.html["ONTAP コマンド リファレンス  
"^]を参照してください。
```

ONTAP SnapMirror SVM レプリケーションから LIF と関連ネットワーク設定を除外する

ソース SVM とデスティネーション SVM が異なるサブネットにある場合は、`snapmirror policy create` コマンドの `--discard-configs network` オプションを使用して、LIF および関連するネットワーク設定を SVM レプリケーションから除外できます。

開始する前に

ソース / デスティネーション クラスタと SVM のピア関係が確立されている必要があります。

詳細については、"[クラスタ ピア関係の作成](#)"および"[SVM クラスタ間ピア関係を作成する](#)"を参照してください。

タスク概要

`snapmirror create` コマンドの `--identity-preserve` オプションは、SVM レプリケーション関係を作成するときに `true` に設定する必要があります。

手順

1. デスティネーション SVM を作成します。

```
vserver create -vserver SVM -subtype dp-destination
```

SVM 名はソース クラスタとデスティネーション クラスタの間で一意である必要があります。

次の例では、`svm_backup` という名前のデスティネーション SVM を作成します：

```
cluster_dst:> vserver create -vserver svm_backup -subtype dp-destination
```

2. デスティネーション クラスタから、`vserver peer create` コマンドを使用して SVM ピア関係を作成します。

詳細については、"[SVMクラスタ間ピア関係を作成する](#)"を参照してください。

`vserver peer create`の詳細については、link:<https://docs.netapp.com/us-en/ontap-cli/vserver-peer-create.html>["ONTAPコマンド リファレンス"]をご覧ください。

3. ジョブ スケジュールを作成します。

```
job schedule cron create -name job_name -month month -dayofweek day_of_week  
-day day_of_month -hour hour -minute minute
```

`-month`、`-dayofweek`、および`-hour`の場合、
`all`を指定して、それぞれ毎月、曜日ごと、および時間ごとにジョブを実行できます。



SVM SnapMirror関係のFlexVolに設定可能な最短スケジュール（RPO）は15分です。SVM SnapMirror関係のFlexGroupボリュームに設定可能な最短スケジュール（RPO）は30分です。

次の例では、土曜日の午前3：00に実行される`my_weekly`という名前のジョブ スケジュールを作成します：

```
cluster_dst::> job schedule cron create -name my_weekly -dayofweek  
"Saturday" -hour 3 -minute 0
```

4. カスタム レプリケーション ポリシーを作成します。

```
snapmirror policy create -vserver SVM -policy policy -type async-  
mirror|vault|mirror-vault -comment comment -tries transfer_tries -transfer  
-priority low|normal -is-network-compression-enabled true|false -discard  
-configs network
```

次の例は、LIFを除外するSnapMirror DR用のカスタム レプリケーション ポリシーを作成します。

```
cluster_dst::> snapmirror policy create -vserver svm1 -policy  
DR_exclude_LIFs -type async-mirror -discard-configs network
```

次の例は、LIFを除外するユニファイド レプリケーション用のカスタム レプリケーション ポリシーを作成します。

```
cluster_dst::> snapmirror policy create -vserver svm1 -policy  
unified_exclude_LIFs -type mirror-vault -discard-configs network
```



今後のフェイルオーバーやフェイルバックのシナリオに備えて、ソース クラスタに同じカスタムSnapMirrorポリシーを作成することを検討してください。

```
`snapmirror policy create`
```

の詳細については、link:<https://docs.netapp.com/us-en/ontap-cli/snapmirror-policy-create.html>["ONTAPコマンド リファレンス"^]を参照してください。

5. デスティネーションSVMまたはデスティネーション クラスタから次のコマンドを実行して、レプリケーション関係を作成します。

```
snapmirror create -source-path SVM: -destination-path SVM: -type DP|XDP  
-schedule schedule -policy policy -identity-preserve true|false -discard  
-configs true|false
```



`-source-path`および `-destination-path`オプションでは、SVM名の後にコロンの(:)を入力する必要があります。以下の例をご覧ください。

次の例は、LIFを除外するSnapMirror DR関係を作成します。

```
cluster_dst::> snapmirror create -source-path svm1: -destination-path  
svm_backup: -type XDP -schedule my_weekly -policy DR_exclude_LIFs  
-identity-preserve true
```

次の例は、LIFを除外するSnapMirrorユニファイド レプリケーション関係を作成します。

```
cluster_dst::> snapmirror create -source-path svm1: -destination-path  
svm_backup: -type XDP -schedule my_weekly -policy unified_exclude_LIFs  
-identity-preserve true -discard-configs true
```

`snapmirror create`の詳細については、link:<https://docs.netapp.com/us-en/ontap-cli/snapmirror-create.html>["ONTAPコマンド リファレンス"^]を参照してください。

6. デスティネーションSVMを停止します。

```
vserver stop
```

SVM name

次の例は、svm_backupという名前のデスティネーションSVMを停止します。

```
cluster_dst:> vserver stop -vserver svm_backup
```

7. デスティネーションSVMまたはデスティネーション クラスタから、レプリケーション関係を初期化します。

```
snapmirror initialize -source-path SVM: -destination-path SVM:
```

次の例では、ソース `svm1` とデスティネーション `svm_backup` の関係を初期化します：

```
cluster_dst:> snapmirror initialize -source-path svm1: -destination  
-path svm_backup:
```

`snapmirror initialize`の詳細については、[link:https://docs.netapp.com/us-en/ontap-cli/snapmirror-initialize.html](https://docs.netapp.com/us-en/ontap-cli/snapmirror-initialize.html)["ONTAP コマンド リファレンス"]を参照してください。

終了後の操作

災害発生時のデータ アクセス用に、デスティネーションSVMでネットワークとプロトコルを設定する必要があります。

関連情報

- "[snapmirror create](#)"
- "[snapmirror initialize](#)"
- "[snapmirror policy create](#)"

ONTAPを使用したSVM レプリケーションからネットワーク、ネーム サービス、およびその他の設定を除外

デスティネーション SVM との競合や設定の違いを回避するために、ネットワーク、ネーム サービス、およびその他の設定を SVM レプリケーション関係から除外する必要があります。

`snapmirror create` コマンドの `--identity-preserve false` オプションを使用すると、SVMのボリュームとセキュリティ設定のみをレプリケートできます。一部のプロトコルとネーム サービスの設定も保持されます。

タスク概要

保存されるプロトコルおよび名前サービス設定の一覧については、"[SVM DR関係でレプリケートされる設定](#)"を参照してください。

開始する前に

ソース / デスティネーション クラスタとSVMのピア関係が確立されている必要があります。

詳細については、"[クラスタ ピア関係の作成](#)"および"[SVMクラスタ間ピア関係を作成する](#)"を参照してください。

手順

1. デスティネーションSVMを作成します。

```
vserver create -vserver SVM -subtype dp-destination
```

SVM名はソース クラスタとデスティネーション クラスタの間で一意である必要があります。

次の例では、`svm_backup`という名前のデスティネーション SVM を作成します：

```
cluster_dst:> vserver create -vserver svm_backup -subtype dp-destination
```

2. デスティネーション クラスタから、`vserver peer create`コマンドを使用して SVM ピア関係を作成します。

詳細については、"[SVMクラスタ間ピア関係を作成する](#)"を参照してください。

`vserver peer create`の詳細については、[link:https://docs.netapp.com/us-en/ontap-cli/vserver-peer-create.html](https://docs.netapp.com/us-en/ontap-cli/vserver-peer-create.html)["ONTAPコマンド リファレンス"]をご覧ください。

3. レプリケーション ジョブ スケジュールを作成します。

```
job schedule cron create -name job_name -month month -dayofweek day_of_week  
-day day_of_month -hour hour -minute minute
```

`-month`、`-dayofweek`、および `-hour`の場合、
`all`を指定して、それぞれ毎月、曜日ごと、および時間ごとにジョブを実行できます。



SVM SnapMirror関係のFlexVolに設定可能な最短スケジュール（RPO）は15分です。SVM SnapMirror関係のFlexGroupボリュームに設定可能な最短スケジュール（RPO）は30分です。

次の例では、土曜日の午前3：00に実行される`my_weekly`という名前のジョブ スケジュールを作成します：

```
cluster_dst:> job schedule cron create -name my_weekly -dayofweek  
"Saturday" -hour 3 -minute 0
```

4. ネットワーク、ネーム サービス、およびその他の設定を除外するレプリケーション関係を作成します。

```
snapmirror create -source-path SVM: -destination-path SVM: -type DP|XDP
-schedule schedule -policy policy -identity-preserve false
```



`-source-path`および`-destination-path`オプションのSVM名の後にコロン(:)を入力する必要があります。以下の例を参照してください。このコマンドは、デスティネーション SVMまたはデスティネーション クラスタから実行する必要があります。

次の例では、デフォルト`MirrorAllSnapshots`ポリシーを使用してSnapMirror DR関係を作成します。この関係では、ネットワーク、ネーム サービス、およびその他の設定がSVMレプリケーションから除外されます。

```
cluster_dst:> snapmirror create -source-path svm1: -destination-path
svm_backup: -type XDP -schedule my_daily -policy MirrorAllSnapshots
-identity-preserve false
```

次の例では、デフォルト`MirrorAndVault`ポリシーを使用して統合レプリケーション関係を作成します。この関係では、ネットワーク、ネーム サービス、その他の構成設定は除外されます：

```
cluster_dst:> snapmirror create svm1: -destination-path svm_backup:
-type XDP -schedule my_daily -policy MirrorAndVault -identity-preserve
false
```

ポリシータイプ`async-mirror`のカスタムポリシーを作成したと仮定すると、次の例ではSnapMirror DR関係を作成します。この関係では、ネットワーク、ネーム サービス、およびその他の設定がSVMレプリケーションから除外されます：

```
cluster_dst:> snapmirror create -source-path svm1: -destination-path
svm_backup: -type XDP -schedule my_daily -policy my_mirrored -identity
-preserve false
```

ポリシータイプ`mirror-vault`のカスタムポリシーを作成したと仮定すると、次の例では統合レプリケーション関係を作成します。この関係では、ネットワーク、ネーム サービス、およびその他の設定がSVMレプリケーションから除外されます：

```
cluster_dst:> snapmirror create -source-path svm1: -destination-path
svm_backup: -type XDP -schedule my_daily -policy my_unified -identity
-preserve false
```

`snapmirror create`の詳細については、link:<https://docs.netapp.com/us-en/ontap-cli/snapmirror-create.html>["ONTAPコマンド リファレンス"]を参照してください。

5. デスティネーションSVMを停止します。

```
vserver stop
```

SVM name

次の例は、dvs1という名前のデスティネーションSVMを停止します。

```
destination_cluster::> vserver stop -vserver dvs1
```

6. SMBを使用している場合は、SMBサーバも設定する必要があります。

"[SMBのみ：SMBサーバーの作成](#)"を参照してください。

7. デスティネーションSVMまたはデスティネーション クラスタから、SVMレプリケーション関係を初期化します。

```
snapmirror initialize -source-path SVM_name: -destination-path SVM_name:
```

`snapmirror initialize`の詳細については、link:<https://docs.netapp.com/us-en/ontap-cli/snapmirror-initialize.html>["ONTAPコマンド リファレンス"]を参照してください。

終了後の操作

災害発生時のデータ アクセス用に、デスティネーションSVMでネットワークとプロトコルを設定する必要があります。

ONTAP SnapMirror SVM DR関係に使用するローカル階層を指定する

ディザスタ リカバリ SVM が作成された後、`aggr-list`オプションと`vserver modify`コマンドを使用して、SVM DR デスティネーション ボリュームをホストするために使用されるローカル層を制限できます。

手順

1. デスティネーションSVMを作成します。

```
vserver create -vserver SVM -subtype dp-destination
```

2. ディザスタ リカバリSVMのaggr-listを変更して、ディザスタ リカバリSVMのボリュームをホストするた

めに使用されるローカル層を制限します：

```
cluster_dest::> vserver modify -vserver SVM -aggr-list <comma-separated-list>
```

DR関係のONTAP SnapMirrorデスティネーションSVM用のSMBサーバを作成する

ソースSVMにSMB設定があり、`identity-preserve`を`false`に設定する場合は、デスティネーションSVM用にSMBサーバを作成する必要があります。SMBサーバは、SnapMirror関係の初期化中の共有など、一部のSMB設定が必要です。

手順

1. `vserver start`コマンドを使用してデスティネーション SVM を起動します。

```
destination_cluster::> vserver start -vserver dvs1
[Job 30] Job succeeded: DONE
```

`vserver start`の詳細については、[link:https://docs.netapp.com/us-en/ontap-cli/vserver-start.html](https://docs.netapp.com/us-en/ontap-cli/vserver-start.html)["ONTAPコマンド リファレンス"]を参照してください。

2. `vserver show`コマンドを使用して、デスティネーションSVMが`running`状態でサブタイプが`dp-destination`になっていることを確認します。

```
destination_cluster::> vserver show
```

Vserver	Type	Subtype	Admin State	Operational State	Root Volume
Aggregate					

dvs1	data	dp-destination	running	running	-

`vserver show`の詳細については、[link:https://docs.netapp.com/us-en/ontap-cli/vserver-show.html](https://docs.netapp.com/us-en/ontap-cli/vserver-show.html)["ONTAPコマンド リファレンス"]を参照してください。

3. `network interface create`コマンドを使用してLIFを作成します。

```
destination_cluster::>network interface create -vserver dvs1 -lif NAS1
-role data -data-protocol cifs -home-node destination_cluster-01 -home
-port a0a-101 -address 192.0.2.128 -netmask 255.255.255.128
```

```
`network interface create`
```

の詳細については、link:<https://docs.netapp.com/us-en/ontap-cli/network-interface-create.html>["ONTAPコマンド リファレンス"]を参照してください。

4. `network route create`コマンドを使用してルートを作成します。

```
destination_cluster::>network route create -vserver dvs1 -destination  
0.0.0.0/0  
-gateway 192.0.2.1
```

"ネットワーク管理"

`network route create`の詳細については、link:<https://docs.netapp.com/us-en/ontap-cli/network-route-create.html>["ONTAPコマンド リファレンス"]を参照してください。

5. `vserver services dns create`コマンドを使用してDNSを設定します。

```
destination_cluster::>vserver services dns create -domains  
mydomain.example.com -vserver  
dvs1 -name-servers 192.0.2.128 -state enabled
```

```
`vserver services dns create`
```

の詳細については、link:<https://docs.netapp.com/us-en/ontap-cli/search.html?q=vserver+services+dns+create>["ONTAPコマンド リファレンス"]を参照してください。

6. `vserver cifs domain preferred-dc add`コマンドを使用して優先ドメイン コントローラを追加します。

```
destination_cluster::>vserver cifs domain preferred-dc add -vserver dvs1  
-preferred-dc  
192.0.2.128 -domain mydomain.example.com
```

```
`vserver cifs domain preferred-dc add`
```

の詳細については、link:<https://docs.netapp.com/us-en/ontap-cli/vserver-cifs-domain-preferred-dc-add.html>["ONTAPコマンド リファレンス"]を参照してください。

7. `vserver cifs create` コマンドを使用してSMBサーバーを作成します。

```
destination_cluster::>vserver cifs create -vserver dvs1 -domain  
mydomain.example.com  
-cifs-server CIFS1
```

`vserver cifs create`の詳細については、link:<https://docs.netapp.com/us-en/ontap-cli/vserver-cifs-create.html>["ONTAPコマンド リファレンス"]を参照してください。

8. `vserver stop` コマンドを使用してデスティネーション SVM を停止します。

```
destination_cluster::> vserver stop -vserver dvs1  
[Job 46] Job succeeded: DONE
```

`vserver stop`の詳細については、link:<https://docs.netapp.com/us-en/ontap-cli/vserver-stop.html>["ONTAPコマンド リファレンス"]を参照してください。

ONTAP SnapMirror SVM DR関係からボリュームを除外する

デフォルトでは、ソース SVM のすべての RW データ ボリュームがレプリケートされます。ソース SVM 上のすべてのボリュームを保護したくない場合は、`volume modify` コマンドの `-vserver-dr-protection unprotected` オプションを使用して、SVM レプリケーションからボリュームを除外できます。

手順

1. SVMレプリケーション対象からボリュームを除外します。

```
volume modify -vserver SVM -volume volume -vserver-dr-protection unprotected
```

`volume modify`の詳細については、link:<https://docs.netapp.com/us-en/ontap-cli/volume-modify.html>["ONTAPコマンド リファレンス"]をご覧ください。

次の例では、ボリューム `volA_src` を SVM レプリケーションから除外します：

```
cluster_src::> volume modify -vserver SVM1 -volume volA_src -vserver-dr  
-protection unprotected
```

除外したボリュームをあとでSVMレプリケーション対象に含めるには、次のコマンドを実行します。

```
volume modify -vserver SVM -volume volume -vserver-dr-protection protected
```

次の例では、ボリューム `volA_src` を SVM レプリケーションに含めます：

```
cluster_src::> volume modify -vserver SVM1 -volume volA_src -vserver-dr  
-protection protected
```

2. "[SVMの設定全体のレプリケート](#)"の説明に従って、SVM レプリケーション関係を作成して初期化します。

著作権に関する情報

Copyright © 2026 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S. このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5252.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および / または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータ ソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用权を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用权については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、<http://www.netapp.com/TM>に記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。